

講座名	坂田ケ池周辺・縄文古代の遊歩道と房総のむら内散策		
開催日時	2022年 7月14日(木)	10時～14時	
開催場所	印旛郡栄町	一般参加者	17名

活動概要

縄文風土記の丘、紀元前1万年～4千年頃の縄文古代人、飛鳥～白鳳時代を生きた古代人が闊歩していたであろう風土記の丘の道を歩きました。龍角寺への旧参道、シラカシ・コナラ等の樹木が林立する小道を坂田ケ池に向かって下って行きました。所々に古墳の跡があり、飛鳥・白鳳時代はどんな道だったのかな、などと話しているうちに、岩屋古墳(105号)の前に到着、方墳としては、日本最大規模、南面に横穴式石室が開口しているの、皆で中を覗いてみました。更に歩くと、101号古墳、沢山の埴輪が出土し、そのレプリカが飾ってありました。中でも目立ったのが、お椀をかしなく女性の埴輪、みなで同じポーズをとって、記念撮影しました。(上の写真参照)



坂田ケ池は、飛鳥・白鳳の頃は、香取の海の一部であったと推定されます。池に渡された橋の中央の休憩コーナーから風土記の丘を眺めて、縄文古代人の心の内を読み解いてみました。縄文土偶は「豊穡の女性像」ではなく、トチの実、クルミの実等の豊作を祈願して、女性の体になぞらえて作ったのではないかと土偶を作ること、家族や一族の絆を深め合っていたのではないかと縄文人の気持ちになって、坂の道を登りましょうということで、再び岡の道に戻りました。途中の道で、参加者の方から、「クロチクが120年振りに開花しているのでご案内します」とのご提案有り、早速、見せていただきました。写真では、見えにくいのですが、矢印(青色)をご覧ください。

昼食後、房総の村内の商家の街並みを経由して、上総の農家を見学中、雨が本降りになり、途中の坂道がスリッパし易いために、残念ながら散策を中断し、村の案内所に戻りました。案内所の休憩コーナーを借りて、雨の際に準備していた、「ヤマユリにちなむ、大伴家持の和歌」「平安古代、千葉駅周辺の駅舎が河曲と呼ばれていた理由・更級日記との関連」などのテーマについて、解説をして、午後2時、予定を切り上げて終了とさせていただきます。散策中に観察した植物：ヤマユリ・オオバノトンボソウ・アキノタムラソウ・イチヤクソウ・ハンゲシヨウ・オカトラノオ・コセリバオウレン・ゴボウの実・ベニバナ等、最後に、再度、参加者の方からアマチャ(ヤマアジサイの変種)の場所を紹介していただき、アマチャの製法など、雨の中にもかかわらず、話が弾みました。雨で中断となってしまい、返す返すも残念なことでした。キンラン、キツネノカミソリ等の季節に、再度実行できたら良いねと話しながら解散となりました。右下写真：ベニバナ(未摘花)



F I C 講師 渡邊 勲